



親愛なる皆様へ

とても寒くて憂鬱な気分になる季節には、皆様はきっとアロマセラピーで元気づけてほしいと思っていることでしょう！それなら一旦この手紙を脇に置いて、あなたのエッセンシャルオイルの箱の中からイランイランを取ってきてください。イランイランの香りを深く吸い込んで、再び読み進めてください…

このニュースレターがお役に立てば幸いです。

ペニープライス

---

## イランイラン

学名：Cananga odorata (バンレイシ科)

イランイランの木は香りのよい花を咲かせるので熱帯地方のいたるところに植えられています。フィリピンではほとんどすべての村で見かけるほどです。イランイランの花は個性的で、咲き始めには緑色をしています。2、3日すると黄色になり強い香りを放ちます。女性たちは特別な日にイランイランの整髪料を使用します。オイルは新鮮な花からの水蒸気蒸留法で得られます。マダガスカルやコモロ諸島が主な生産地です。

イランイランのオイルは淡黄色でとても香りが強く、クレゾールや安息香酸様の香りを最初に感じた後すぐに花の甘い香りが残ります。時間が経つと少しずつ心地よい香りに変わり、ソフトで甘く、わずかにスパイシーでバルサム(樹脂)の香りも思わせるような花の香りになっていきます。シャネルの「No. 5」(シャネル、1921年発売)や、その他数えきれないほどの香水の原料としても古くから使用されてきました。

オイルの主要成分には数種類のパワフルな芳香化合物があり、例えば酢酸ベンジル(約25%)、パラクレシルメチルエーテル(約20%)、メチルベンゾエート(約5%)、サリチル酸メチルや酢酸シンナミルなどです。ほんの微量しか含まれていないパラクレゾール、オイゲノール、イソオイゲノールもサリチル酸ベンジル(約3%)と同じように香りを決定づける役目を果たします。さらにイランイランにはリナロール(約15%)、酢酸ゲラニル(約10%)、酢酸ファルネシル(約3%)も多く含まれており、その他のセスキテルペン類やT-ムウロロール(約2%)などの酸化誘導体も同量程度含まれています。

パラクレシルメチルエーテルはイランイランの花の特徴成分です。パラクレシルメチルエーテル自体は人々が不快に感じるようなとても強い香りで、その香りはトイレ掃除用の洗剤として好まれるほどです！しかし濃度は低めで、花に含まれるその他多くの芳香化合物のおかげで、イランイランはとてもエキゾチックな香りになっています。

溶剤抽出法で抽出したイランイランのアブソリュートも心地よい香りのため、アロマセラピーでは使用しませんが香水産業では有名です。熱帯地方のバルサム様の花の香りとともに甘い香りが強く広がること、そして軽さや成分が特別な香りだとされています。香水業界の主要企業の間では、スズラン(ドイツスズラン)の上級な香水を作成するのにイランイランは最高の材料になると言われているほどです。

カナンガ属に分類されているのは4つの種のみで、それらは全て香りのよい花をつけます。残りのバンレイシ科で香りを持つ花は、たいていカビ臭いような腐敗したような匂いがします。

語源：イランイランはインドネシア語で『ゆるく垂れ下がった(花)』という意味です。

#### ペニープライス社のイランイラン

弊社にオイルを供給しているフランス人のアニー・デプレもマダガスカルに小さな農場を所有しており、主にペニープライスアロマセラピーのためのイランイランを栽培しています。これはその写真です



